

栗駒山山行報告

【山行日】 2016年 10月 10～11日(月火)
【集 合】 栃木市運動公園駐車場 AM 4:00
【費 用】 マイカー1台 : 15,800円
【メンバー】 CL: 鈴木、大西、島田、福田、
藤原、渡辺

10日 曇り時々晴れ いわかがみ平から東栗駒山コースを歩いて栗駒山山頂へ登り、中央コースを下って磐鏡平へ戻る。

栃木市運動公園 P4:00＝臨時駐車場 7:40/7:50＝いわかがみ平 8:00/8:20～新湯沢 9:30～東栗駒山

10:30～栗駒山 11:10～中央コース 11:30/12:00～いわかがみ平 13:00/13:40＝須川温泉 15:00

今回の山行は8日から10日の3日間、泥湯温泉と須川温泉に泊り高松岳と栗駒山に登る予定だった。ところが、泥湯温泉の奥山旅館が火事で休業となり、須川温泉も8日、9日は満室で予約が取れなかつた。

仕方がなく、10日～11日の二日間に変更し栗駒山を、いわかがみ平からと秣岳コースから登るコースに計画を変更した。

東北道を北に向かって走り、若柳金成 IC で降りていわかがみ平へ向かう。天気は曇り空で明るい、栗駒山の上は厚い雲に覆われていた。いわかがみ平手前の臨時駐車場で止められ、係の人に誘導され臨時駐車場に車を止める。3連休の混雑時は、ここに車を止めていわかがみ平までシャトルバスで往復する。登山の支度を整え、シャトルバス乗車の列に並ぶ。ここからいわかがみ平駐車場までは、10分足らずで到着する。バスを降りトイレを済ませ、ストレッチを行って出発する。すぐ上の登山口を右に入り、すぐに小さな沢の中を歩くようになる。一昨日からの雨で、登山道はドロコノ泥濘状態だ。さらに木の根や岩の段差があり、ロープやハシゴで越えるが滑りやすく気が抜けない。登山道脇の紅葉が見頃で、ドウダンやヤマハゼ



の木々が真っ赤に染まっていたが、紅葉を楽しむ余裕はない。1時間以上ドロコノの登山道と格闘し、ようやく新湯沢に着く。新湯沢の中を、80mくらい登り、大きな岩の陰で風を避けて休憩し、ミカンやチョコを食べエネルギーを補給する。休憩後さらに50mくらい沢を登り、沢を渡渉して左岸へ渡る。

ここからは普通の登山道になるが、ガスと強風にさらされとても寒い。

東栗駒山頂で、風を避けながらレインウエアーの上衣を着た。

近くのドウダンの紅葉や草紅葉はうっすらと見えるが、周りはガスで真っ白の世界が広がり何も見えない。風が強いので山頂は諦め、中央コースへ降りる予定にしたが、分岐まで行くと若干風が弱まり明るくなってきた。これなら登れるだろうと、栗駒山頂を目指し登って行く。こんな悪天候にもかかわらず、登山者の列が連なり、下山者も多いのですれ違いに時間が掛かる。ようやく山頂に着き、カメラが無いので携帯で記念写真を撮り、神社の脇でナシやお菓子をいただく。山頂からの眺望は無く、風も強いので下山する。来た道を少し下り、分岐を右に進み中央コースを下って行くと、時折ガスが晴れ真っ赤な紅葉に彩られた斜面が見えるようになる。もう少し待てばガスが晴れ、紅葉の山並みが見





えるようになると思い、登山道の広い場所で昼食にする。ちたけうどんを作り、パンやおにぎりいただくが、温かいうどんが体が温まり気持ちも楽になる。ランチを食べているうちにみるみるガスが晴れ、ドウダンやヤマモミジの紅葉に彩られた斜面が広がり、山頂直下の草紅葉も現れてきた。皆さんから「ウワ～～綺麗」と歓声が上がったが、これでもピークは過ぎて半分は葉が落ち

ちていた。それでも栗駒山の紅葉は素晴らしく、見る人を飽きさせない。ゆっくり紅葉を楽しみながら中央コースを降りて行くが、観光客の数が半端でなく次々と登って来る。いわかがみ平に着き、O嬢がバスに乗れないので、我輩が車を取りにシャトルバスに乗って臨時駐車場に向かう。車を回収していわかがみ平に行き、皆さんを載せて須川温泉に向かう。須川温泉コースも混んだらしく、車が列をなして下ってくる。狭い箇所は登り優先で通らせてもらい、予定通りに須川温泉に着いた。

受付を済ませ部屋に案内してもらい、荷物を運んで落ち着いたら温泉に入る。広い檜造りの温泉は気持ち良く、乳白色の湯が山の疲れを癒してくれる。温泉から出たら夕食の支度が始まり、調理は女性陣に任せ、男性陣は食器や座布団などを女性の部屋に運び込む。前日光和牛のスキヤキと鯛やマグロの刺身が並び、宴会がスタートする。徳ちゃんが『瀬祭』の大吟醸を差し入れてくれ、超高級なお酒を堪能しながら至福のひと時。スキヤキの肉もワンランク上の肉にし、F原さんは「前回よりも美味しい」と言って沢山食べていた。

宴会が終わったら、我輩はすぐに眠りに就いたが、皆さんは温泉に入り温まってから就寝したようだ。

2日 晴れ 秣岳登山口から天馬尾根コース経由で栗駒山頂に登り、須川コースを下って須川温泉登山口へ下山する。

須川高原温泉 7:00＝秣岳登山口 P7:10/7:20～秣岳 8:50～展望岩頭 10:45～須川分岐 10:55～栗駒山 11:15/11:30～須川分岐 11:45～昭和湖 12:20～須川高原温泉 13:20/14:00＝栃木市運動公園 P19:00

朝5時に起きて温泉に入る予定だったが、二日酔いで頭が重い。皆さんは温泉に行ったが、我輩はまた寝込んでしまった。朝食は徳ちゃんの新米に、野菜炒めとハムエッグ、納豆、味噌汁で超美味しくて



いただいた。後片付けをして7時に宿を出て、登山口に車で向かう。秣岳登山口に到着し、忘れ物をしたことに気づき、一人で宿まで取りに向かう。皆さんはストレッチを済ませ、先に出発した。登山口に戻り、後を追いかけて登って行くとすぐに追いついた。

ブナやミズナラの登山道を登るが、前回の素晴らしい紅葉は見られない。今年は紅葉前線が遅れていて、1週間くらい先のような。ところが秣岳山頂に着くと、様相が一変していた。これから向かうコースの斜面は、ドウダンやヤマモミジの紅葉で彩

られ、途中に点在する湿原は草紅葉がとても素晴らしい。皆さん感動し、口を揃えて「こんな素晴らしいコースだと思わなかったね。」「尾瀬よりもすごいよね。」と嬉しそうに話していた。誰もいない我々だけの湿原を歩き、途中の展望岩から眺めた紅葉は、まさに東北随一の紅葉だと感じた。ルンルン気分で湿原を歩き、目の前の斜面に繰り広げられる紅葉ショーに大興奮。ところが遠くから見ていた

紅葉の斜面を登るようになると、灌木やチシマザサ中の溝を登るようになり、周りがまったく見えない。見通しが悪く滑りやすい登山道を、1時間程登ると尾根に出て、平らな道を進むと展望岩頭へ着いた。

ここには火山噴火の監視カメラが設置され、昭和湖や須川温泉方面の眺望が素晴らしい。栗駒山頂もすぐ側に見え、景色を楽しみながらミカンや菓子などをいただく。ここから緩やかに下ると、すぐに須川分岐に着いた。須川温泉コースを登って来た登山者が、大勢休んでおり賑わっていた。ここから下りたいと言う方もいたが、山頂までもう少しなので全員で山頂を目指す。山頂から下ってくる登山者も多く、狭い登山道でのすれ違いに苦勞する。山頂に着くと、さらに多くの登山者で賑わっていた。昨日見られなかった山頂からの眺望が素晴らしく、昨日登って来た東栗駒山の登山道や、下山途中で見た素晴らしい紅葉が見渡せ大感激。「やっぱり登って来て良かったね。」と喜び、山頂の大きな標柱の前で記念写真を撮る。皆さんは山頂でゆっくりとご褒美のヨーグルトを食べ、我輩は一足先に下り車を回収しに行く。須川分岐まで戻り、分岐を右に降り須川温泉に向かう。水が流れている登山道は滑りやすく、大勢の登山者や下山者がいるので思うように下れない。昭和湖あたりまで降りると紅葉が見頃で、陽光



を受け錦に輝き素晴らしかった。昭和湖から下った谷沿いの紅葉も素晴らしく、写真を撮りながら速足で降りて行く。須川温泉まで下り、ザックをデポしてトイレを済ませ車を取りに走る。駐車場所まで3Kmの道のりは、最初は下りで楽だったが、途中から登りになりきつくなる。ようやく駐車場所に着き、車に乗って須川温泉に戻ると、皆さんがレストランで食事が始まる所。我輩の分もオーダーしておいでくれ、すぐに食べる事が出来た。お腹が満たされたら売店でお土産を買い、車に荷物を積んで帰路につく。平日でも駐車場は満車で、路肩にまで



列をなして止められている。3連休は天気が悪かったので、天気が良い今日にスライドして来たのかなと思った。途中の道の駅似寄り、農産物を買ったが皆さんお目当てのダイコンは置いてなかった。一関ICから東北道に乗り、渋滞も無く順調に走り予定通り栃木市運動公園駐車場に帰着した。